

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

⑨ 有田中央高等学校

記入日 2009年1月20日

1. 概要

実践団体名	和歌山県立有田中央高等学校		
連絡先	代表者 校長 西 克子 電話番号 0737-52-4340		
プランタイトル	『ハイスクール防災講座』		
プランの対象者	c. 小学生（高学年）、d. 中学生、e. 高校生、h. 教職員・保育士等、i. 保護者・PTA、j. 地域住民	対象とする災害種別	1. 地震、2. 津波

【プランの目的・ここがポイント！】 『防災の主人公はあなた』

地震・津波発生時に、以下のことができるように、防災の基礎的な知識を身につけ実習・訓練を受け、3年生全員が一人ひとり防災に賢くなるようにすること。

- ①まずは「生徒自身が自分の身を守り、生き残ること」
- ②困難な中でも、他の人々と力を合わせて課題に立ち向かっていくこと

【プランの概要】 『ハイスクール防災講座』の開講と地域との交流・協働

- ①総合学習（3年生）として、防災の基礎知識の学習・実習・訓練等をする「ハイスクール防災講座」を2～3学期に開講。9教科（社会、理、保体、芸術、英語、家庭、情報、農業、福祉）に関連する防災の授業が主体。
- ②授業の合間に、防災教育用DVD鑑賞、消防署に協力を依頼してのAED訓練や起震車体験、またDIG、防災ゲーム大会、講演会を実施。また、冬期休暇中の課題として生徒の居住地域の防災マップ作成・防災マインドマップの作成。
- ③「ハイスクール防災講座」で得た知識・経験を、小中学校への出前授業など地域との交流・協働で活用。有田川町役場、PTA、本校教職員等にも講座への参加を募集。

【期待される効果・ここがおすすめ！】 『社会人の防災力のレベルアップ』

- ①高校生レベルの体系的かつ実践的な防災教育・実習・訓練を行う「ハイスクール防災講座」を3年生全員が授業として受講することで、学校というシステムを使って、継続的に、防災に役立つ未来の社会人を大量に育成することが可能。
- ②生徒だけでなく教職員、地域にも防災の学習・訓練等の機会を提供し、かつ地域と交流・協働することで地域に貢献できること。

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

2. プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	準備活動	実践活動
2008年 5・6月		<ul style="list-style-type: none"> ・有田川町消防署へAED訓練、起震車体験の打診と依頼 ・小学校への出前授業の打診 ・授業の評価等について検討 ・職員防災アンケート調査集計 ・和歌山県総合防災課へ講演会依頼文提出 ・授業用教材購入の発注開始 	
2008年 7月		<ul style="list-style-type: none"> ・授業用教材の購入 ・授業担当者への防災教材・情報等の提供とDIG準備 ・授業担当者：防災授業案作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修：和歌山県総合防災課による防災講演会 ・職員研修：防災教育担当者へのDIG実施
2008年 8月		<ul style="list-style-type: none"> ・授業用教材の購入 ・授業担当者：授業用プリントを作成・印刷 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修：全職員への現職教育（「ハイスクール防災講座」の説明と防災教育用DVDの部分的鑑賞）
2008年 9月		<ul style="list-style-type: none"> ・有田川町消防署へAED訓練、起震車体験の依頼文提出 ・外部向け「ハイスクール防災講座」案内冊子作成 	<p>「ハイスクール防災講座」開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒：防災教育用DVD鑑賞、防災教育の意義・実施内容等の学習 ・生徒用地震防災アンケート実施 ・9教科の防災授業（3回）
2008年 10月		<ul style="list-style-type: none"> ・有田川町消防署とAED訓練の打ち合せ ・DIGの準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・9教科の防災授業（1回） ・消防署によるAED訓練とDIG
2008年 11月		<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校へ出前授業の打診（各1校）と品評会・文化祭での展示 ・起震車体験の案内 ・町教委・役場へ協力依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ・9教科の防災授業（3回） ・品評会・文化祭で小中高校生・大人延べ195名が起震車体験、生徒作品・授業風景写真等展示
2008年 12月		<ul style="list-style-type: none"> ・冬期休暇中の課題準備 ・授業用教材購入 ・諏訪先生へ講演依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ・9教科の防災授業（2回）（役場より防災担当者が授業見学に来校） ・生徒は冬期休暇中の課題作成
2009年 1月		<ul style="list-style-type: none"> ・クロスロード大会の準備 ・小中学校と出前授業の打ち合せ、出前授業参加生徒の募集 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は冬期休暇中の課題提出 ・クロスロード大会（自作カルタ・購入すぐろくの紹介）、防災講演会

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

⑨ 有田中央高等学校

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム①】

タイトル	社会科 東南海地震が発生、その時あなたはどのようにする？
実施月日（曜日）	9月（9、16、30）、10月（14）、11月（4、11、25） 12月（9、16） 火曜日5・6限
実施場所	社会科教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：木田誠治 所属・役職等：和歌山県立有田中央高等学校・教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	2コマ×50分×9回
プログラムのカテゴリ、形式	D. 総合的な学習の時間
活動目的	カ. 防災に関する知識を深める
達成目標	地震が起こった場合にどのような被害が予想されるのかを知り、地震発生直後から避難所生活に至るまでどんなことに注意して行動すればよいのかを考えさせる。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	1、地震の被害について考える。 2、地震発生直後にまずすべきことは何か考える。 3、避難カードの作成 4、避難の方法について考える。 5、避難所での過ごし方について考える。 6、確認テストの実施
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	NHKビデオ「ライフラインの切断と火災（崩壊した市民生活）」 避難カード 授業用プリント
参加人数	（105名）
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】地震発生後にどのような行動をすればよいか一定の理解が得られた。 【課題】授業内容に多くのものを盛り込んだために、時間が足りなかった。内容の精選が次回の課題である。
成果物	

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

⑨ 有田中央高等学校

【実践プログラム②—1】

タイトル	理科 ①地震・津波の発生メカニズムと被害の学習 ②マグニチュードと震度の違い等についての学習
実施月日（曜日）	9月（9、16、30）、10月（14）、11月（4、11、25） 12月（9、16） 火曜日5限
実施場所	プログラミング実習室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：上山容江 所属・役職等：和歌山県立有田中央高等学校・教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	1コマ×50分×9回
プログラムのカテゴリ、形式	D. 総合的な学習の時間
活動目的	カ. 防災に関する知識を深める
達成目標	地震・津波の発生メカニズムと被害、東南海・南海地震発生時の和歌山県での地震の震度・被害予測、津波の到達時間・高さの予測、マグニチュードと震度の違い等について理解する。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	パワーポイントと和歌山県総合防災課作成のリーフレット「かけがえない命をまもるために」を用いて説明し、最後にプリント「学習のポイント」で要点をまとめた。
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	パソコン、プロジェクター、和歌山県総合防災課作成のリーフレット「かけがえない命をまもるために」、授業用プリント
参加人数	（105名）
経費の総額・内訳概要	総額1,680円 ビデオテープ（1680）
成果と課題	【成果】 達成目標に関して、多くの生徒に一定の理解は得られた。 【課題】 講義形式を用いたので、生徒は受け身になりがちである。来年は対話を多く用いた授業形態を考案し、また手持ちの阪神大震災の画像を加え、自己の体験談を取り入れたい。
成果物	

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

⑨ 有田中央高等学校

【実践プログラム②—2】

タイトル	理科 ①ハザードマップ、過去の地震の津波浸水図の学習 ②通学路の危険箇所の地図作成
実施月日（曜日）	9月（9、16、30）、10月（14）、11月（4、11、25） 12月（9、16） 火曜日6限
実施場所	プログラミング実習室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：上山容江 所属・役職等：和歌山県立有田中央高等学校・教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	1コマ×50分×9回
プログラムのカテゴリ、形式	D. 総合的な学習の時間
活動目的	カ. 防災に関する知識を深める イ. 防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	昭和南海地震時の津波浸水域を知り、通学路の危険箇所の地図作成
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・ パワーポイントで昭和南海地震時の和歌山県各地の津波浸水域図を見せる。 ・ インターネットの和歌山県HPで、東南海・南海地震の津波ハザードマップや土砂災害ハザードマップを検索させ、それを使って生徒自身に自分の通学路の地図に危険箇所を記入させる。
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	パソコン、プロジェクター、DVD電子地図帳、各生徒の通学路を印刷したプリント、授業用プリント
参加人数	（105名）
経費の総額・内訳概要	総額13,800円 DVD電子地図帳（13,800）
成果と課題	<p>【成果】 昭和南海地震時の津波浸水域を知ったこと。 生徒自身が自分の通学路上の危険箇所を知り、その地図を作成したこと。</p> <p>【課題】 パソコンの操作の苦手な生徒への対策</p>
成果物	各生徒の通学路上の危険箇所の地図

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

⑨ 有田中央高等学校

【実践プログラム③】

タイトル	保健体育科①応急手当 ②搬送訓練 ③災害医療（トリアージ等） ④救出訓練 ⑤消火器の取り扱い訓練
実施月日（曜日）	9月（9、16、30）、10月（14）、11月（4、11、25） 12月（9、16） 火曜日5・6限
実施場所	格技場及びトレーニング室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：尾白 賢治 所属・役職等：和歌山県立有田中央高等学校・教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	2コマ×50分×9回
プログラムのカテゴリ、形式	D. 総合的な学習の時間
活動目的	エ. 災害を想定した訓練
達成目標	災害時における救出から搬送までの救助方法の知識を高めて迅速で適切な対処ができる能力を身につける。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	3～4人のグループで徒手搬送法と担架搬送法を実践する。また、毛布と角材を使用し簡易担架を作り安定し搬送できるか確かめる。三角巾を使った骨折・脱臼の固定方法や止血方法を実践する。トリアージタグを使用し災害医療の優先順位の重要性を知る。自動車のジャッキと角材（梃子）の使い方とを学び、下敷きになっている人の救出法を実践する。訓練用の消火器を使って実践する。
準備、使用したもの・人材 ・道具、材料等	担架、簡易担架用棒、角材、毛布、ブルーシート、三角巾、トリアージタグ、ブロック、ジャッキ、ロッカー、訓練用消火器 授業用プリント
参加人数	（105名）
経費の総額・内訳概要	総額 57,429円 担架・手数料（19,315）、簡易担架用棒（4,290）、角材（596）、毛布（3,900）、ブルーシート（495）、三角巾（5000）、トリアージタグ（4,365）、ブロック（588）、ジャッキ（2380）、訓練用消火器（16,500） ロッカー
成果と課題	【成果】 簡易担架の作り方などその場で工夫し対応する柔軟性と協力者の重要性を身につけることができた。 【課題】 生徒に救出のイメージを持たせるため現場のリアリティを出せればよかった。
成果物	

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム④－１】

タイトル	芸術科 ①防災教育カルタの作成
実施月日（曜日）	9月（9、16、30）、10月（14）、11月（4、11、25） 12月（9、16） 火曜日5限
実施場所	書道教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：森 勝 博 所属・役職等：県立有田中央高等学校・教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	1コマ×50分×9回
プログラムのカテゴリ、形式	D. 総合的な学習の時間
活動目的	ア. 遊び・楽しみながらの防災
達成目標	防災カルタの制作を通して、災害時に想定される事態を標語として予め学習し、遊び・楽しみながら災害に対する知識を身に付けていく。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・参考例を参照しながら、「あ」～「ん」までの51音の防災に関するカルタを作成する。 ・カルタ札の文面は参考例を参考にして、(例 あ「あっ揺れた大事な頭をまず守ろう」) 絵の部分を作成する。 ・下書き用紙に構想を練って、カルタカードに鉛筆で下書きした後、水性絵の具などで色づけをして仕上げる。 ・仕上がった「防災教育カルタ」は、施設実習など、外部の施設などで実演する。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・筆記用具・カルタ大カード・水彩絵の具・色鉛筆・ニススプレー・糊・授業用プリント
参加人数	(105名)
経費の総額・内訳概要	4,200円 (カルタ大カード4セット)
成果と課題	<p>【成果】 防災カルタの作成が出来た。絵の苦手な生徒も前向きに取り組むことが出来た。</p> <p>【課題】 カルタの標語をどこまで深めることが出来たか。</p>
成果物	防災カルタ2セット

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

⑨ 有田中央高等学校

【実践プログラム④－２】

タイトル	芸術科 ②被災地への色紙作成
実施月日（曜日）	9月（9、16、30）、10月（14）、11月（4、11、25） 12月（9、16） 火曜日6限
実施場所	書道教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：森 勝 博 所属・役職等：県立有田中央高等学校・教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	1コマ×50分×9回
プログラムのカテゴリ、形式	D. 総合的な学習の時間
活動目的	ア. 遊び・楽しみながらの防災
達成目標	気持ちを込めて作品制作する。
実践方法・進め方（簡条書き、またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 阪神大震災の折、特に被害がひどかった長田地区の商店街で、街と心の復興を相互に祈って、書家“相田みつを”の色紙作品を掲示することにより、住民たちにとって励みになったり、癒しになったりしたということを受けて、“相田みつを”の言葉を色紙に制作、清書する。 ・ 筆と墨を使って半紙に練習した後、色紙に清書する。 ・ 仕上がった作品は、校内外に展示する。
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 筆・墨・半紙（練習用）・色紙 ・ 相田みつを著作集 ・ 授業用プリント
参加人数	（105名）
経費の総額・内訳概要	8,700円（色紙150枚）
成果と課題	<p>【成果】 書道作品制作経験のない生徒も前向きに興味を持って取り組んだ。</p> <p>【課題】 防災カルタの作成との時間配分</p>
成果物	色紙作品

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム⑤】

タイトル	英語科 5限：災害に関する標語を和英辞典を利用しながら考察 6限：災害の防災ポスターを英語版で作成する
実施月日（曜日）	9月(9、16、30)、10月(14)、11月(4、11、25)、12月(9、16)の 毎火曜日 5・6限
実施場所	図書館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：栗山 憲一郎 所属・役職等：和歌山県立有田中央高等学校・教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	2コマ×50分×9回
プログラムのカテゴリ、形式	D. 総合的な学習の時間
活動目的	ア. 遊び・楽しみながらの防災 イ. 防災に役立つ資料・材料
達成目標	本人はもとより、他の人々にも防災意識を高めてもらう
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先ず、日本語で災害に関する標語を作成させる。 ・ 日本語で作成した標語の中でわからない単語を和英辞典で調べさせる。 ・ 英語版の標語に変換させる。 ・ 標語の内容が一目でわかるようなイラストを考えさせる。 ・ 下書きに従って画用紙にイラスト入りの英語版ポスターを作成させる。
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業用プリント ・ 下書き用の用紙(自校作成) ・ ポスカ、クレパス、画用紙
参加人数	(105名)
経費の総額・内訳概要	総額46,523円 ポスカ (37,343)、クレパス (5,130)、画用紙 (4,050)
成果と課題	<p>【成果】 実施前と比較して意識が高まった。</p> <p>【課題】 人数が105名と多いため、似かよった作品が多くなる。</p>
成果物	・ 英語版ポスター

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

⑨ 有田中央高等学校

【実践プログラム⑥－１】

タイトル	家庭科 ①耐震診断と補強
実施月日（曜日）	9月（9、16、30）、10月（14）、11月（4、11、25） 12月（9、16） 火曜日5限
実施場所	第1被服教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：川村麻衣 所属・役職等：和歌山県立有田中央高等学校・教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	1コマ×50分×9回
プログラムのカテゴリ、形式	D. 総合的な学習の時間
活動目的	イ. 防災に役立つ資料 カ. 防災に関する知識を深める
達成目標	地震に強い構造について知識を身につけ、耐震の意識を高める。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 倒壊した住宅の原因を考える。 ・ 地震に強い家づくりについて考える。 ・ 牛乳パックを使っての実習で補強の重要性を知る。 ・ 自宅の耐震診断を行う。
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	KHKビデオ「クローズアップ現代 中越地震」、授業用プリント 牛乳パック、はさみ、セロハンテープ大
参加人数	（105名）
経費の総額・内訳概要	総額744円 ビデオテープ（420）、セロハンテープ大（324）
成果と課題	<p>【成果】地震に強い構造（筋かいや合板の役割）について理解し、耐震の意識を高めることができた。</p> <p>【課題】生徒が耐震対策を考えるだけでなく実行できるようにしたい。</p>
成果物	生徒各自が牛乳パックで制作した模型（3種類）

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

⑨ 有田中央高等学校

【実践プログラム⑥-2】

タイトル	家庭科 ②身近でできる防災対策
実施月日（曜日）	9月（9、16、30）、10月（14）、11月（4、11、25） 12月（9、16） 火曜日6限目
実施場所	第一被服教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：岩上みほ 所属・役職等：和歌山県立有田中央高等学校・講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	1コマ×50分×9回
プログラムのカテゴリ、形式	D. 総合的な学習の時間
活動目的	イ. 防災に役立つ資料 カ. 防災に関する知識を深める
達成目標	自分の部屋の見取り図を描き、危険な所を調べ家具の耐震対策を考える。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 例であげた部屋でどこが危険か考える。 ・ 耐震金具の紹介をする。 ・ 自分の部屋の見取り図を描く。 ・ 紹介した耐震金具を使って、自分の部屋の耐震対策を考える。 ・ 部屋の見取り図に改善を付け加える（赤ペンで記入）
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	プロジェクトペーパーA4、ガラス飛散防止フィルム、エコ家具転倒防止版、耐震マット、強力家具転倒防止ポール L、家具固定金具（4種類）、授業用プリント
参加人数	（105名）
経費の総額・内訳概要	総額6,718円 プロジェクトペーパーA4（796）、ガラス飛散防止フィルム（980）、エコ家具転倒防止版（680）、耐震マット（198）、強力家具転倒防止ポール L（1,370）、家具固定金具（4種類）（2,694）
成果と課題	<p>【成果】地震が起こったとき自分の部屋で危険な所を調べ、改善するためにはどうすれば良いか考える機会がもてた。</p> <p>【課題】生徒が耐震対策を考えるだけでなく実行できるようにしたい。</p>
成果物	部屋の見取り図

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

⑨ 有田中央高等学校

【実践プログラム⑦-1】

タイトル	情報科 ①インターネットを利用して地震・津波情報を検索し、地震発生時の状態を予想（津波シミュレーション等） ②流言、風評被害の学習と伝言ゲーム
実施月日（曜日）	9月（9、16、30）、10月（14）、11月（4、11、25） 12月（9、16） 火曜日5限
実施場所	マルチメディア実習室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：中西雅重 所属・役職等：和歌山県立有田中央高等学校・教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	1コマ×50分×9回
プログラムのカテゴリ、形式	D. 総合的な学習の時間
活動目的	カ. 防災に関する知識を深める
達成目標	インターネットを通して防災知識を深める。流言や風評による二次災害を学び情報の信ぴょう性を知る。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・一つのテーブルを囲んで座り、プロジェクターの画面を見ながら授業を進めた。自分の住む地域の津波シミュレーションなどを見て意見を出し合った。 ・情報の信頼性を確かめるため、伝言ゲームを行った。（文章を耳元で伝えて行う） ・防災に関するWebページを紹介し、各自パソコンで閲覧した。（Yahoo 天気カテゴリ防災情報、地震調査研究推進本部など）
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	パソコン、プロジェクター、資料（授業レジュメ）
参加人数	（105名）
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	<p>【成果】 自分の住む地域の津波シミュレーションから、災害が身近なものであることを認識した。伝言ゲームを通して情報に疑問を持つことができた。</p> <p>【課題】 班により意見の交換が難しかった。</p>
成果物	

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

⑨ 有田中央高等学校

【実践プログラム⑦-2】

タイトル	情報科 ①災害時の情報の入手と発信(災害用伝言ダイヤル 171 等)の学習・実習
実施月日(曜日)	9月(9、16、30)、10月(14)、11月(4、11、25) 12月(9、16) 火曜日6限
実施場所	マルチメディア実習室
担当者または講師	担当者・講師等の区分: 担当者 氏 名: 中西雅重 所属・役職等: 和歌山県立有田中央高等学校・教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	1コマ×50分×9回
プログラムのカテゴリ、形式	D. 総合的な学習の時間
活動目的	カ. 防災に関する知識を深める キ. その他(災害時の情報の入手方法や発信手段を体験)
達成目標	災害時における情報の関わりを理解し、その入手方法や発信手段を身につける。
実践方法・進め方(箇条書き、またはフロー)	<ul style="list-style-type: none"> ・一つのテーブルを囲んで座り、プロジェクターの画面を見ながら業を進めた。災害時における情報の入手方法や被災者の情報ニーズについて考え、意見を出し合った。 ・各自インターネットを利用し、災害用伝言ダイヤル 171 や防災わかやまメール配信サービスの利用方法を調べた。(希望者は、実際にメール配信を登録)
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	パソコン、プロジェクター、資料(授業レジュメ)
参加人数	(105名)
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	<p>【成果】被災者の情報ニーズを考える過程で、災害時どのような状況におかれるか意見が出し合えた。防災に関わる取り組みがさまざまな分野で行われていることを知る機会となった。</p> <p>【課題】班により意見の交換が難しかった。</p>
成果物	

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム⑧－１】

タイトル	農業科 ①非常持ち出し品・保存食品等の学習と非常食の試食 ②救出用器具等の学習とその取り扱い方法
実施月日（曜日）	9月（9、16、30）、10月（14）、11月（4、11、25） 12月（9、16） 火曜日5限目
実施場所	グリーン講義室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：岩本 光弘 所属・役職等：和歌山県立有田中央高等学校・教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	1コマ×50分×9回
プログラムのカテゴリ、形式	D. 総合的な学習の時間
活動目的	カ. 防災に関する知識を深める キ. その他（試食体験）
達成目標	災害に備えてどのような備蓄品を準備しておくべきか理解し、救出用器具の取り扱い方法等について知る
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 準備した備蓄品（命にかかわるもの、ないと困るもの、あると便利なもの）を紹介しながら説明をする。（プリントにまとめる） 2. 救出用器具の取り扱い方法等について説明をする。 3. α米（白米と五目ご飯）の準備をする。 4. プロジェクターを使用しながら地域で実施された防災訓練（県主催）の様子を紹介する。 5. α米の試食の感想を書かせる。
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	α米（白米と五目飯）、ポット（お湯）、ペーパーボウル、箸 パソコン、プロジェクター、サバイバルGキット、シルバー防災頭巾、丸太コンロ、レスキューキットリュック型、家庭用組み立て式簡易トイレ、授業用プリント
参加人数	（105名）
経費の総額・内訳概要	総額111,957円 α米（白米と五目飯）（28,300）、ペーパーボウル（1,386）、箸（296）、パソコン、プロジェクター、サバイバルGキット（25,400）、シルバー防災頭巾（4,200）、丸太コンロ（1,575）、レスキューキットリュック型（46,000）、家庭用組み立て式簡易トイレ（4,800）

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

⑨ 有田中央高等学校

成果と課題	【成果】 達成目標に関して、多くの生徒に理解は得られた。 【課題】 特にありません
成果物	

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

⑨ 有田中央高等学校

【実践プログラム⑧-2】

タイトル	農業科 ①緊急救助技術を身に付ける(ロープワークの訓練)
実施月日(曜日)	9月(9、16、30)、10月(14)、11月(4、11、25) 12月(9、16) 火曜日6限目
実施場所	グリーン講義室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：岩本 光弘 所属・役職等：和歌山県立有田中央高等学校・教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	1コマ×50分×9回
達成目標	緊急救助技術を身に付ける(ロープワークの訓練)
実践方法・進め方(箇条書き、またはフロー)	パソコンとプロジェクターを使用しながらインターネットの「生活に役立つ学習教材 覚えて使おう ロープの結び方」で様々なロープの結び方(ひと結び、ふた結び、巻き結び、もやい結び3種類)を順次進めた。
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	パソコン、プロジェクター、授業用プリント ロープ(各生徒1本ずつ) 実習教諭(1名)
参加人数	(105名)
経費の総額・内訳概要	総額8,310円(ポリエステルロープ)
成果と課題	【成果】達成目標に関して、多くの生徒に理解は得られた。 【課題】戸外の実践(建物からの脱出等)で使用できるロープワークの技術等の研修
成果物	

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

⑨ 有田中央高等学校

【実践プログラム⑨－１】

タイトル	福祉 ①災害弱者対策について学習・考察
実施月日（曜日）	9月（9、16、30）、10月（14）、11月（4、11、25） 12月（9、16） 火曜日5限
実施場所	福祉講義室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：則村 佐恵 所属・役職等：和歌山県立有田中央高等学校・講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	1コマ×50分×9回
プログラムのカテゴリ、形式	D. 総合的な学習の時間
活動目的	カ. 防災に関する知識を深める キ. その他（車いすの体験）
達成目標	災害弱者に対しての知識を深め、車いすの体験をする。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業用プリントに添った講義（災害弱者とは、障害に応じた対応等） ・ 実習：車いすの体験
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	車いす 凸凹の路面（段ボールで作成）
参加人数	（105名）
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	<p>【成果】生徒が災害弱者対策についての知識を深め、車いすの体験をすることができた。</p> <p>【課題】日常的な関わりについて、実際の自宅環境について考えることができるようになる。</p>
成果物	

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

⑨ 有田中央高等学校

【実践プログラム⑨-2】

タイトル	福祉科 ②被災者支援・ボランティアについての学習・考察
実施月日（曜日）	9月（9、16、30）、10月（14）、11月（4、11、25） 12月（9、16） 火曜日6限
実施場所	福祉講義室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：則村 佐恵 所属・役職等：和歌山県立有田中央高等学校・講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	1コマ×50分×9回
プログラムのカテゴリ、形式	D. 総合的な学習の時間
活動目的	カ. 防災に関する知識を深める
達成目標	被災者支援に関する知識及び、ボランティアに対する関心を深める。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	・授業用プリントにそった講義 (被災者支援、ボランティア、災害心理・PTSD等)
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・授業用プリント
参加人数	(105名)
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】被災者支援に関する各種制度があることを知り、ボランティアについて興味を持つことができた。 【課題】自分の趣味や関心のある事柄と連携したボランティアについて考えることができるようになる。
成果物	

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

⑨ 有田中央高等学校

【実践プログラム⑩】

タイトル	有田川町消防署によるAED訓練
実施月日（曜日）	10月21日、28日（火曜日5・6限）
実施場所	格技場
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名： 上山容江（氏名は記録しておりません） 講師 所属・役職等：県立有田中央高校・教諭 有田川町消防署員6名
所要時間または「コマ数×単位時間」	10月21日：2コマ×1回 10月28日：1コマ×2回
プログラムのカテゴリ、形式	B. 講習会・学習会・ワークショップ D. 総合的な学習の時間
活動目的	エ. 災害を想定した訓練
達成目標	AEDの使用方法を知り、AEDを使用できるようになること
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	① 消防署員の説明・実演の後、班毎に分かれて指導を受ける ② 班の全員がAEDの訓練を受ける ③ 担当教員は生徒の態度等の注意・指導をする ※2回目の10/28は急遽班編成を変え6班とし、3班ずつ1コマのみAED訓練を受けた。AED訓練は担当教員5名＋臨時担当教員1名で3班を注意・指導し、同時間・別室での3班の指導には臨時担当教員6名（2回で合計12名）があたり、生徒は震災体験文集学習と感想文作成等を行った。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・有田川町消防署員6名（1回につき3名） ・9教科の担当教員10名＋臨時担当教員13名 ・AED訓練器3個（消防署） （・兵庫県立舞子高等学校環境防災科作成の震災体験文集） （・感想文用紙）
参加人数	（105名）
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】AEDの使用方法を学び、訓練できた。 【課題】訓練の待ち時間に態度の良くない生徒がいた。
成果物	

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

⑨ 有田中央高等学校

【実践プログラム⑩】

タイトル	D I G
実施月日（曜日）	10月21日、28日（火曜日5・6限）
実施場所	多目的室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名： 上山容江 所属・役職等：和歌山県立有田中央高等学校・教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	2コマ×2回
プログラムのカテゴリ、形式	B. 講習会・学習会・ワークショップ D. 総合的な学習の時間
活動目的	エ. 災害を想定した訓練
達成目標	災害に遭ったと想定して、災害時に重要な場所や津波浸水域・土砂災害危険箇所等を確認した後、どう対応するか具体的に考えること。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	①担当者がD I Gとは何かを説明した後、地震・津波の映像を鑑賞 ②指定された班毎のテーブルに着席し、リーダーを選出し、以後はリーダーの指示に従い作業を進める。 ③ 透明フィルムを張った都市計画図上に災害時に重要な場所、交通網、河川、津波浸水域、崖崩れ危険箇所等をマジックで記入。 ④ 震発生時やその後自分は何をしているか、すべきかを考えメモ用紙に記入。 ⑤ 班の全員がメモ用紙の内容を発表し、分類し模造紙に添付。 ⑥ 班で話し合い意見をまとめて、リーダーが班の意見を発表。 ⑦ 質疑応答・講評・アンケート
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・9教科の担当教員10人で実施 ・模造紙、都市計画図、マジック、透明フィルム、ポリエチレンフィルム、メモ用紙、タックタイトル、DVD-RW、パソコン、プロジェクター
参加人数	(105名)
経費の総額・内訳概要	総額10,849円 模造紙(540)、都市計画図(1,000)、マジック(3,240)、透明フィルム(360)、ポリエチレンフィルム(3,300)、メモ用紙(1,516)、タックタイトル(893)、DVD-RW(256)

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

⑨ 有田中央高等学校

成果と課題	【成果】 災害に遭ったとき、どう対応するか生徒なりに具体的に考えることができた。 【課題】 真面目に取り組もうとしない生徒への対策。
成果物	

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム⑫】

タイトル	文化祭の展示・起震車体験
実施月日（曜日）	11月16日（日）
実施場所	展示：C講義室　起震車：校内ホール前
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏　　名：上山容江 所属・役職等：和歌山県立有田中央高等学校・教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	展示：9：00～14：30 起震車：10：00～14：00の3時間（昼休憩を除く）
プログラムのカテゴリ、形式	A. イベント・行事
活動目的	ア. 遊び・楽しみながらの防災 オ. 災害を疑似体験
達成目標	生徒、職員、地域住民、保護者等に日頃の授業の成果・様子を見てもらうことと、起震車の体験をしてもらうこと
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	①展示 ・ 9教科の中で成果物のある教科からの作品の展示 ・ 作品のない教科は授業風景の写真を展示 ・ 「ハイスクール防災講座」の外部向け資料の展示 ②起震車の体験 ・ 消防署員の指示に従って揺れを体験（小中高生、大人） ・ お客への呼びかけや注意・整列は世話係の生徒が交代で実施。
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	① 展示 授業風景の写真、英語のポスター、防災カルタ、牛乳パックの作品、部屋の見取り図、和歌山県下の東南海・南海地震発生時の鉄道・国道の津波浸水予測図、模造紙、マジック、ポスカ ② 起震車体験 消防署員2名、起震車、世話係の生徒
参加人数	起震車体験：延べ195名
経費の総額・内訳概要	総額54円　模造紙（54）
成果と課題	【成果】 展示：防災授業の展示をすることで、生徒、職員、地域住民、者等に日頃の授業の成果・様子を知ってもらうことができた。

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

⑨ 有田中央高等学校

	起震車体験：延べ195名もの人々に体験してもらえた。 【課題】人手不足で展示室係の生徒を置けなかったこと
成果物	

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

⑨ 有田中央高等学校

【実践プログラム⑬】

タイトル	冬期休暇中の課題 ①地域防災マップ作成 ②防災マインドマップ作成
実施月日（曜日）	12月25日（木）～1月7日（水）
実施場所	生徒自宅・自宅周辺
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：上山容江 所属・役職等：和歌山県立有田中央高等学校・教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	
プログラムのカテゴリ、形式	G. 家庭学習
活動目的	イ. 防災に役立つ資料・材料づくり カ. 防災に関する知識を高める
達成目標	① 自分の住む地域の防災マップを実際に歩いて作成することで、災害時の危険箇所を確認し、避難路を確認または考えること。 ②防災マインドマップを作成することで、9教科で学習・実習・訓練した内容を結びつけて考えられるようになること。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	① 地域防災マップ作成 自分の住む地域を歩いて回り、災害時の危険箇所・避難所をチェック、地図上に記入し、避難経路を確認または考える。 ②防災マインドマップ作成 9教科で学習・実習・訓練したことを関連づけるため、9教科の防災に関する重要語句を、「例」を参考に関連語句を線で結ぶ。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・3学年担任（配布）、9教科担当者（回収） ・地域防災マップと防災マインドマップ作成説明用プリント ・生徒105名分の居住地域の地図 （グーグルマップとゼンリン住宅地図より作成） ・防災マインドマップ用紙
参加人数	105名中70名提出
経費の総額・内訳概要	

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

⑨ 有田中央高等学校

成果と課題	<p>【成果】①個人により差はあるが、地域防災マップ作成で家庭周辺の危険箇所、避難経路を知ったこと、 ②防災マインドマップ作成で9教科での防災学習のつながりを考えたこと。</p> <p>【課題】課題提出者が約67%であること。</p>
成果物	<ul style="list-style-type: none">・各生徒の作成した地域防災マップと防災マインドマップ・新たな教材としての防災マインドマップ

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム⑭】

タイトル	クロスロード（防災カルタ・防災すごろく）大会
実施月日（曜日）	1月13日（火）5限
実施場所	3年生の各HR教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名： 上山容江 所属・役職等：和歌山県立有田中央高等学校・教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	1コマ×50分
プログラムのカテゴリ、形式	B. 講習会・学習会・ワークショップ D. 総合的な学習の時間
活動目的	ア. 遊び・楽しみながらの防災 カ. 防災に関する知識を深める
達成目標	・クラスのみなどと楽しみながら防災について考え、学ぶこと。 ・今まで学んできたことの応用問題（クロスロードの内容）を考え、話し合うこと。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	① クロスロードのカードは高校生に身近なものを10枚選択し、ゲームのセットを105名分用意する。 ② クロスロードの使用方法を説明後、班毎に班長、記録係を決めさせ実施する。 ③ 記録係は「クロスロード勝敗・話し合い記録用プリント」に勝敗結果を記録し、ゲーム終了後に班で話し合う。 ④ 生徒が作成した防災カルタと防災すごろく「大なまじん」のうち、どれか一つを各クラスで実施する。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・9教科の授業担当者10人で実施 ・クロスロード（105名分）、防災カルタ（3セット）防災すごろく「大なまじん」（1セット）、クロスロード勝敗・話し合い記録用プリント
参加人数	96名
経費の総額・内訳概要	総額39,545円 クロスロード（37130）、防災すごろく「大なまじん」（2415）

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

⑨ 有田中央高等学校

成果と課題	<p>【成果】 クラスのみんなと楽しみながらクロスロードをしていた。</p> <p>【課題】 時間不足で、防災カルタと防災すごろく「大なまじん」を実施できず、紹介しただけに終わったこと。理由はともあれ欠席者が8.6%（9名）もあったこと。</p>
成果物	

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

⑨ 有田中央高等学校

【実践プログラム⑮】

タイトル	防災講演会
実施月日（曜日）	1月13日（火）6限
実施場所	視聴覚教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：諏訪清二先生 所属・役職等：兵庫県立舞子高等学校環境防災科 科長
所要時間または「コマ数×単位時間」	1コマ×50分
プログラムのカテゴリ、形式	C. 講演会・シンポジウム D. 総合的な学習の時間
活動目的	カ. 防災に関する知識を深める キ. その他（震災体験者との交流）
達成目標	・講演の内容・主旨を理解し、実生活に活かしてもらうこと ・震災体験者である諏訪清二先生との交流
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	①諏訪先生に講演の打診・依頼 ②講演会の開催 ③講演後、生徒にアンケートを実施
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・講師：諏訪先生 ・9教科の授業担当者10人 ・パソコン、プロジェクター、マイク、 ・アンケート用紙
参加人数	96名
経費の総額・内訳概要	総額8,580円 交通費(8580)
成果と課題	【成果】 ・回収したアンケートの結果を見ると生徒の約59%が「大変良かった」、約40%が「良かった」と回答している。特に、震災時の生々しいお話が強く印象に残ったようだ。自分なりにできることを何かしたいという生徒もいた。 ・校長を初め講演会に出席してくれた担当者以外の職員もいた。 【課題】 ・貴重な講演会の時間に寝ている生徒がいたこと。

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

⑨ 有田中央高等学校

	<ul style="list-style-type: none">・生徒からの質問が無かったこと・生徒のアンケートの回収率が約81%だったこと・理由はともあれ欠席者が8.6%（9名）もあったこと。
成果物	

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム⑩】

タイトル	小中学校への出前授業
実施月日（曜日）	藤並小学校 2月3日（火） 昼休み+5限（13:30～14:35） 吉備中学校 2月10日（火） 6限（14:20～15:10） 予定
実施場所	①藤並小学校 6年教室、②吉備中学校 1年教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：上山容江 所属・役職等：和歌山県立有田中央高等学校・教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	藤並小学校 65分、吉備中学校 1コマ×50分
プログラムのカテゴリ、形式	H. 出前授業
活動目的	キ. その他（地域との交流、防災の啓発・啓蒙活動）
達成目標	・授業の内容を理解し、作品を仕上げてもらふこと ・実生活に活かしてもらふこと
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	① 藤並小学校 6年生 「建築物の耐震補強の学習・牛乳パックの実習」 ② 吉備中学校 1年生 「安全な家具の配置の学習・部屋の見取り図作成」 ※①、②ともまだ実施していません。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・9教科の授業担当者 10名 ・代表生徒（ ）名
参加人数	藤並小学校 6年 99名、吉備中学校 1年約 165名
経費の総額・内訳概要	総額（ ）円 家具固定金具・ポスカ・他（ ）
成果と課題	【成果】 未実施 【課題】 未実施
成果物	

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>実践プログラム①から⑩まで</p> <p>①社会科：講義中心の授業となるため、暗記中心の授業にならないように生徒に考えさせる時間を多く取り、一緒に考えながら授業をすすめた。また生徒に真剣に授業に向き合ってもらうため、授業の最後に確認のテストを実施した。</p> <p>②理科：①1年時に理科総合Bの授業で学習したプレート・地震の内容を復習する形で導入し、地震・津波発生のメカニズムに関する基礎的な事項と地震・津波に伴う甚大な被害をリアルに教えることを工夫した。 ②生徒が受け身にならず自分の問題として考え取り組めるような題材で作業を伴い、しかも実際役に立つものは何かと考案した。</p> <p>③保体科：2年生の保健で学習した応急手当などを生かし、生徒が興味を持って活動できる訓練を選ぶのに苦勞した。また、実践の活動する場所も雨天を想定して野外を避け室内で行える内容にし、準備する用具なども予算の範囲内で行える授業内容とする工夫をした。</p> <p>④芸術科：①本校3年次総合的な学習の時間「リンク・アップ・ゼミ」で“防災教育”に取り組むことになった。各教科（9教科）で実施出来る内容を検討するにあたり、全く白紙の状態からのスタートとなった。担当者同士の話し合いの中から、“あそぼうさいカルタ”の存在を教えていただいたのをきっかけに、普段は書道の授業の担当で、門外漢にもかかわらず実施することに踏み切った。 ②“カルタ制作”と、“色紙作品制作”を2コマの時間帯でどのように配分すればよいか。また、どのように気持ちを切り替えて制作すればよいかを難しいと考えた。</p> <p>⑤英語科：・図書館の利用で、図書司書や部員の協力を仰ぐ。 ・ALTの活用。一般的な英語の文章ではなく、標語的な表現への変換時に協力を仰ぐ。</p> <p>⑥家庭科：①家の構造や建物の補強に関して、興味・関心のある生徒が少なく少しでも生徒が身近に感じ、興味を持って取り組める内容になるよう、視聴覚教材や実習を取り入れた。</p>
--	--

②最初のプランではビデオを使い、家具の倒れ方や、耐震金具の効果についてまとめていました。しかし作業の時間が少なかったためビデオをなくし、作業をする時間を増やしました。このことで生徒にじっくり考えて作業をする時間を取ることができるようになりました。

⑦情報科：・防災教育と情報とのつながりについて、何をテーマに進めるかに苦勞した。
・授業が受け身にならないように、一つのテーブルを全員で囲み、意見がさかんに交わせるようにした。

⑧農業科：授業で使用する資料作成（プリント）で、どのような資料を準備すべきか頭を悩ませた。

⑨福祉科：①私自身災害についての知識が乏しかったことと、災害についての手持ちの資料が少なかったため、配布してくれた防災士教本を参考に、インターネットを活用し、資料作成を行った。生徒が視覚的に見やすいよう、配色などを考えた授業用プリントを作成した。

②具体的な支援の内容を私自身認識不足だったため、被災者支援に関する各種制度に関して、インターネットを活用し、内閣府からの資料を参考に授業用プリントを作成した。ボランティアに関しても、防災士教本を参考に、知っておきたい基本的な事柄を中心にまとめた。災害者の心理についても同様に、防災士教本を参考に、心的外傷後ストレス障害を取り上げた内容とした。

⑩A E D訓練：最初の計画書では、9班の生徒に3班ずつ3回（3日）に分けて訓練を実施する予定だったが、今年度は火曜日が行事等で少なく、2回で実施しなければならなくなった。1度の訓練につき消防署員が3人しかいないため、プランを練り直し、どのように実施するか調整しなければならず大変だった。

⑪D I G：最初の計画書では生徒の9班を3班ずつ3回（3日）に分けてD I Gを実施する予定だったが、今年度は火曜日が行事等で少なく、2回で実施しなければならなくなり、プランを練り直さなければならなかった。

	<p>⑫文化祭の展示・起震車体験 起震車の配置場所は品評会・文化祭の来客のよく通るところで、かつ、邪魔にならないところを選ぶ必要があったので文化祭担当の特活部と協議した。</p> <p>⑬冬期休暇中の課題</p> <p>① 地域防災マップ 個人又はグループ等、どういう形で生徒にマップを作成させるか、どの程度まで調べさせるのかなど考え工夫した。</p> <p>② 防災マインドマップ 9教科間の防災教育をどのようにつなげるかは当初からの課題でもあり、また、中間報告会でもそれを指摘された。いろいろな教材・資料を探し検討した結果、生徒の能力に応じてでき、かつ、生徒個人の9教科間のつながりが把握でき、バラエティに富んだものが期待できそうなマインドマップを選択するまでに時間と労力とがかかった。</p> <p>⑭クロスロード大会：クロスロードを3年生全員分購入する場合、購入資金をどうするか悩んだ。</p> <p>⑮防災講演会：本校には真面目な生徒も多いが、いわゆる困難校の1つであるため、講演会の講師先生をどなたにお願いするか思案した。</p> <p>⑯小中学校への出前授業：小学校の授業時間帯が高校と合わないことや、小学生は高校生が普通に使っている言葉や意味を知らないことが多いこと等から、打ち合わせを詳細に行った。</p>
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>実践プログラム①から⑯まで</p> <p>①社会科：地震の被害などは口で説明するよりも、視覚に訴える方が効果が高い。適切なビデオ教材がないか探した。絶版になっているビデオも多く、教材さがしに苦勞した。またビデオ教材は長時間使用すると、生徒の集中力が落ちてくるのでできるだけ印象的な場面をワンポイントで使うようにした。</p> <p>②理科：①地震・津波のメカニズムに関する基礎的な事項と地震・津波に伴う甚大な被害をリアルに教えるために、一目見たら分かるという適切な映像を探すのに苦勞した。初めはビデオ上映を考えて録画等し</p>

て資料を集めたが、なかなか適切なものが得られず、編集すると著作権問題も大きくなるため、最終的にインターネット上の画像を探すことにしたが、これにも時間がかかった。

②毎時間、生徒一人ひとりがその生徒自身の通学路上の危険箇所の地図を作成するため、班の生徒一人ひとりの住所と通学方法等を調べて地図を印刷するのはけっこう大変だった。

③保体科：できるだけ安価なものを使って行った。

④芸術科：①生徒が実施することを想定して、時間配分を考慮したり、実際作成可能かを試作品を作成して試してみたが、実際実施してみると、生徒は前向きに取り組むことが出来た。尚、作品制作手順は次の通り。

1. “あそぼうさいカルタ”の作成に当たり、インターネットでカルタの見本をダウンロードし、カラープリンターでプリントアウトした。それを基にして、教材屋からカルタの台紙を購入した。(400枚用意)

2. カルタ大の用紙を用意し、そこに鉛筆を使って下書きし、水性ボールペンで縁取りを施し、水彩絵の具で色づけするという手順で試作品を作成した。

3. 仕上がったカルタ用紙を台紙に貼り付け、ニススプレーを吹き付けて完成。

②“色紙作品制作”については、施設についても、用具についても揃っているのも特に心配はなかったが、書道経験のない生徒が如何に前向きに取り組むことが出来るかが不安だった。

⑤英語科：英語がわからない人(子どもや老人)が見ても何を訴えているのかわかるようなイラストを考えさせるのに苦労した。

⑥家庭科：①倒壊した建物など被害を視覚に訴えようとしたが、適切なビデオ教材がなかなか見つけることができず苦労した。

②部屋の見取り図を描かせるときのイメージがわかりやすいように生徒の部屋に近づけるよう工夫をしました。また、例の見取り図を模型にして、興味をひく工夫をしました。

⑦情報科：①災害を身近なものに感じられるように、自分たちの住む地域における災害情報や津波のシミュレーションなど、教材を探すこと

に苦勞した。また、流言や風評被害といった二次災害について、
分かりやすくまとめることに苦勞した。

- ③ 被災者の情報ニーズを時間的な経過などからまとめることに
苦勞した。

⑧農業科：①特にありません

- ②少し難度のあるロープワークの技術的な習得

⑨福祉科：①資料作成にあたり、著作権を考慮しなければならなかった点に
苦勞しました。車いす実習を行うにあたり、災害時を意識した通路
（狭い道、段差、凸凹道）を設定するのに、教室にある机や教
壇などを使用したり、凸凹道に関しては段ボールにより作成をし
た。しかし、何度も使用しているうちに、段ボールの凸凹が少な
くなり、あまり効果が薄れてしまったことが反省点です。

- ②資料作成にあたり、著作権を考慮しなければならなかった点が
苦勞しました。

⑩A E D訓練：1回目の10月21日は生徒9班のうち4班と一緒にA E D
訓練を受けたが、消防署員が3人しか来れないので4班を3班に
編成し直した。自分の訓練時以外の時間を持て余したためか、態
度があまりよくない生徒がいた。これについて消防署からの指摘
もあり、管理職からの提起で関係者の会議を開いて検討した結
果、2回目の28日の訓練は残り5班を特別編成にして実施する
ことに急遽変更となった。特別編成班を6班つくり3班ずつに2
分割し、5限と6限を別のメニューにして、消防署員の指導を受
ける人数を少なくした。28日は1コマはA E D訓練、もう1コ
マは兵庫県立舞子高等学校環境防災科が作成した震災の体験文
集の学習後に感想文を書く等の内容に変更した。急だったので準
備が大変だったことと、臨時担当者に急遽協力を依頼しなければ
ならなかったことに心苦しさを感じた。

⑪D I G：適当なポリエチレンフィルムを販売している店がなかなか見
つからず困った。また、1回目のD I Gでは、スクリーンから遠
い作業テーブルの生徒が映像を見づらいとのことだったので、2
回目ではスクリーンをみる場所と作業テーブルを別にして、映像
を見やすく工夫した。

⑫文化祭の展示・起震車体験

起震車体験案内のポスターを作成し、小中学校へ配布した。

⑬冬期休暇中の課題

①地域防災マップにどの地図を使用するのがよいか、いろいろと試したことと、生徒に防災マップ作成体験がないため、危険箇所ポイントを示したプリントを用意した。

②防災マインドマップは本物のマインドマップとは程遠いが、簡単なマインドマップの例を作成して、生徒の作業の助けとした。

⑭クロスロード大会：10人の防災授業担当者が協力して、クロスロードのカード・座布団を用紙から切り離してセットにしたが、105名分作るのは大変だった。

⑮防災講演会：チャレンジプラン事務局に講師の交通費を計上するのが遅くなり、ご迷惑をおかけし申し訳ありませんでした。

⑯小中学校への出前授業：どうしたら小中学生に教えたいことをうまく伝えられるのか考え工夫している最中です。

実践に
当たって
苦労した点
工夫した点

実践プログラム①から⑮まで

- ①社会科：生徒と考えながら授業を進めていくため、授業によりどんどん進む班と非常にゆっくりとすすむ班の差が激しかった。
- ②理科：①パワーポイントを用いて講義形式で授業を行ったが、内容が盛り沢山だったこともあり、生徒に発言を求める時間があまりなかった。最後に学んだことを復習するために、「学習のまとめ」にポイントとなる言葉を記入させることで、そのかわりとした。
- ②パソコン操作が不得手な生徒は時間がかかりメニューをこなせないこともあり、生徒の支援に駆け回ることもあった。
- ③保体科：グループによって積極的に取り組める班となかなか実践できない班とがあり、同じ内容まで指導することが難しかった。
- ④芸術科：①実施する前は、カルタが作成出来るかどうか不安で一杯だったが、殊の外、生徒の取り組む姿勢が良く、3セットのカルタを完成することが出来た。中には、絵を描くのが苦手な生徒もいたが、その生徒なりのカルタを作成することが出来た。ただ、オリジナリティという観点からは反省するところが多く、カルタの防災に対する言葉の作成から、それに対する絵の作成までが出来れば、更に防災に対する意識が高まってくるのではないかと思われる。
- ②“カルタ制作”から“色紙作品制作”へという制作の流れは、当初予想していたよりも、概ねスムーズに行くことが出来た。書道経験の無かった生徒についても、班内にいる書道経験者の様子を伺いながら、墨を磨ったり、筆を動かして文字を書いたりという一連の制作活動をこなすことが出来た。また、おもしろい作品も制作することが出来た。ただ、「相田みつを」の言葉の意味を噛みしめて、更には、被災者の気持ちを想定しながら作品制作が出来たかということ、災害に対する切迫感がない中での作品制作となってしまうのではないかと思う。今後は、制作する言葉や文についても一考したいと思う。
- ⑤英語科：使用する英単語を調べても、文章ではなく「標語」の表現にするのが難しかった。また、丁寧な作品を作成しようとする生徒には時間的な制限がきつかった。

- ⑥家庭科：①自宅の構造について知らない生徒が多く、耐震診断の問診の内容を理解させることが難しかった。
- ②自分の部屋に家具が少ない生徒は作業の時間が余ることが多く、関心をひきつけておくことに苦労しました。また、耐震金具の紹介や使い方を説明する時、実際に使用している物や写真を用意できなかったのでイメージが伝わりにくく説明に苦労しました。耐震金具の説明をただけでは理解している生徒も少なかったので自分の部屋や友達の部屋を板書して一緒に考えていくようにしました。
- ⑦情報科：・積極的な意見が交わされるように、発問に注意し進めた。
・出来るかぎり時間にゆとりを持たせ、一つずつ意見が出るように進めた。
- ⑧農業科：①特にありません
②積極的にやろうとしない生徒に対する指導
- ⑨福祉科：①災害弱者に含まれる障害者や高齢者などについては、福祉の経験をいかし、専門用語などについては生徒が正しく理解しやすいように、わかりやすい言葉を用い、指導を行った。車いす実習を行うにあたり、指導者1人では屋外に出るのは困難なため、十分な指導が行き届くよう教室内での実習とした。車いすの体験は、平常時と違った設定で行い、生徒全員に利用者役、介助者役の両方の体験ができるようにした。
- ②被災者支援に関しては、支援制度の1例を用いて、生徒に説明を行い、その他の支援については、時間の関係上、紹介のみとなった。ボランティアに関しては、阪神・淡路大震災が発生したときは、生徒は何歳であったかなど、震災が身近なものとしてとらえることができるように努め、より取り組みやすいように配慮した。しかし、ボランティアに興味を持ったという感想を書いていた生徒も多くあったため、さらにボランティアについての考察を深め具体的にどういったことがボランティアにつながっていくのか、生徒と共に考えることができたらよかったと思う。災害者の心理に関しては、被災者も、職業的救援者（消防士や警察官など）もそれぞれに精神的ストレスを感じるということを理解させ、心にも外傷を負うことがあるのだということを説明した。

- ⑩ A E D 訓練：消防署員から A E D 訓練を受ける時、1 つの班の人数を少なくし、態度の良くない生徒がいたら、その場ですぐに厳しく指導するようにした。
- ⑪ D I G：真面目に取り組もうとしない生徒には、その場ですぐに注意・指導するようにした。
- ⑫文化祭の展示・起震車体験
起震車体験の時間帯は、時々晴れ間が見えたが雨も降ったので、お客さんがあまり濡れないよう配慮した。
- ⑬冬期休暇中の課題：これについては、生徒にアンケートする予定です。
- ⑭クロスロード大会：クロスロードと防災カルタと防災すごろく「大なまじん」を50分で行おうとしたが、時間的に無理だった。
- ⑮防災講演会：貴重な講演会の時間に初めから寝ている生徒がおり、注意しても起きようとしないので困った。本校には真面目な生徒も多いのですが、いわゆる困難校の1つであるため、諏訪先生にはどうかお許しをお願い致します。

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・同窓会組織	①藤並小学校 ②吉備中学校 ③有田川町教育委員会	①出前授業 ②前授業 ③「ハイスクール防災講座」の案内と協力依頼
保護者・PTAの組織	①PTA	①「ハイスクール防災講座」へのお誘い
地域組織		
国・地方公共団体・公共施設	① 有田川町役場 ② 有田川町消防署	① ハイスクール防災講座」の案内と協力・見学依頼 ② AED訓練、起震車体験協力
企業・産業関連の組合等		
ボランティア団体・NPO法人・NGO等		
職業、職能団体・学術組織、学会等		

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

成果として 得たこと	<p>①生徒</p> <p>総合学習（3年生）として、防災の基礎知識の学習・実習・訓練等をする「ハイスクール防災講座」で9教科（社会、理、保体、芸術、英語、家庭、情報、農業、福祉）に関連する防災の授業を受けたことや、授業の合間に、防災教育用DVD鑑賞、AED訓練や起震車体験、DIG、防災ゲーム大会、講演会、また、冬期休暇中の課題として居住地域の防災マップ作成・防災マインドマップの作成をしたことは、大きな防災力の向上となったと考えている。（これについてはアンケート調査を1月28日に実施予定）</p> <p>②教職員</p> <p>9教科の担当教員は初めて行う防災の授業やそれに備えての準備、授業の合間の行事や研修等で大変だったと思うが、防災の意識や知識が向上し、それが家庭等の別のところでも応用されているように思う。また、9教科の担当教員はもちろんのこと、管理職をはじめ、それ以外の多くの教職員からも、様々な分野で協力・支援していただいた。教職員間のこの協力は職場の宝物である。（教職員アンケートを実施予定）</p> <p>③教材 新しく「防災マインドマップ」という教材を作成できたこと。</p> <p>④地域との交流</p> <p>消防署や役場からの支援を通して、今後にも活かせる交流ができたこと。まだ現在は実施できていないが、出前授業を通して小中学校との交流も得られそうなこと。</p> <p>⑤その他 防災教育を高校教育の一環として、正規の授業の中で卒業生全員に、ある程度体系的・実践的・継続的に行うことが可能であること。</p>
全体の反省・ 感想・課題	<p>① プラン実施</p> <p>大旨計画通りに進めることができたと思うが、小中学校の出前授業が残っているのが最後まできちんと実施したい。中間報告会で改善を指摘された点については、いろいろなところで改善するよう努力した。</p> <p>② 防災教育の担い手</p> <p>自己の担当教科は無論、授業以外のプログラムに関しても基本的に一人で計画・準備・実施と段取りをしなければならなかったのが、2学期からは本当に激務であった。来年度は、防災教育担当者を一人補充し、仕事を分担してもらい、防災教育ができる職員を徐々に増やしていく必要がある。</p> <p>③ 地域との連携・協働</p> <p>地域の自主防災組織との連携を有田川町役場に打診してみたが、自主防災組織の活動があまり進んでいないらしく、連携できなくて残念だった。</p>
今後の 継続予定	2010年度までは継続可能。2011年度から新カリだが継続するよう要望したい。

7. 自由記述欄 ①

①【社会科】授業風景



②【理科】通学路の危険箇所の地図作製



③【保健体育科】担架搬送法訓練



7. 自由記述欄 ②

④【芸術科】制作した防災カルタ



⑤【英語科】災害標語ポスター制作風景



⑥【家庭科】牛乳パックで建築物補強の実習



7. 自由記述欄 ③

⑦【情報科】授業風景



⑧【農業科】ロープワーク



⑨【福祉科】車いすの実習



7. 自由記述欄 ④

⑩【AED訓練】



⑪【DIG】



⑭【クロスロード】

